

**【はじめに】**

出会いと経験が人生を左右する。人生を振り返ると、そう思うことがたくさんある。素晴らしい出会いと経験は、幸せな人生と明るいまちの未来へと繋がっていく。

幼少の頃、在日韓国人である私は、国籍の違いに引け目を感じ、差別されるのではないかという恐怖感を覚えていた。そして、周囲に受け入れてもらうために気を遣い、認めてもらうことばかり考えていた。しかし、その不安をよそに、どんな時でも身近な大人や同級生は、分け隔てなく接してくれたのだ。私はその暖かい人たちと、この素晴らしいまちに心から感謝をしている。そして、いつかその恩を返すと決めて生きてきた。

私は2010年に宇都宮青年会議所へ入会し、6年が経過した。入会の目的はまちのため人のためという崇高なものではなく、自己の成長や友達を増やしたいという単純なものであった。JC活動が続ける中で、幾度となく壁が目の前に現れ、それを乗り越える度に見える世界が広がっていくのを実感した。振り返ってみると、多くの人に出会い、貴重な経験を積ませていただいた。

その出会いと経験が学びとなり、学びを積み重ねることによって成長できたと実感している。

心から思うことがある。

JCは学び舎である。JCがなければ今の自分はない。

**【まちを牽引する使命】**

青年会議所の使命は、愛するまちを明るい豊かな社会にするために、率先して行動することである。我々は、先達から受け継いだこのまちを後世に繋いでいく責務がある。少子高齢化や人口減少が加速すると予測されている中、我々は愛するこのまちに何を残しているのだろうか。

私は一人の宇都宮市民として、常にまちの未来に関わっていたい。その気持ちは愛する家族や会社を大切に想うことから始まっている。大切な人たちにとって、このまちがいつまでも住み良いまちであって欲しいと願う。だからこそ私は、まちのために行動するのだ。一人の行動が源となり、それが波紋のように広がりまちが変わっていくと信じている。

まちを牽引するのは我々青年の使命である。

### 【市民協働のまちづくり】

全国各地で市民協働のまちづくりが行われている。宇都宮市においては、第2次市民協働推進計画「みんなでまちづくりプラン」に基づき、行政と市民と各種企業団体が公的領域を担い合ってきた。また、宇都宮まちづくりセンター「まちぴあ」が協働のプラットフォームとなり各種企業団体との連携が生まれつつある。

一方、宇都宮市における市民の地域活動への参加率は、決して高いとは言えない現状がある。例えば、自治会への加入率は、単身世帯や若年世帯を中心に、年々減少の一途をたどり、平成27年には66.6%まで低下している。また、同年に実施された市民4,800人を対象にした第48回市政に関する世論調査によると、「地域において社会的な活動に参加しているか」という質問に対し、63.9%が参加していないと答えている。

市民協働のまちづくりを推進していくためには、市民が住み暮らすまちに関心を持ち、まちづくり活動に参加することがカギとなる。そのためには、未だまちづくり活動に参加したことのない市民に、参加するきっかけを提供することが必要だと思う。その入り口として、身近で気軽な地域活動への参加を促していきたい。地域と連携して、市民のまちづくり活動への参加意識を喚起し、一人でも多くの市民をまちづくりへと巻き込んでいく。それが拡がり積み重なってまちの未来は創られていくのだ。

### 【であいとふれあいの広場】

宇都宮青年会議所創立10周年を記念して始まったふるさと宮まつりは、本年で42回目を迎える。「であいとふれあいの広場」をテーマに、年々進化を重ね、宇都宮の夏に活気と彩りを与えている。

実行本部の一端を担う我々は、本年も行政や各種団体との連携を強化し、市民目線に立った企画を実現したい。また、当日の運営は、観客と参加者の安全を背負っているという自覚を持って臨まなければならない。そして、関わる全ての人たちが、いつまでも記憶に残る宮まつりを一丸となって構築しよう。

### 【魅力ある人財の創出】

最近、一部の企業や政治家によって引き起こされた、モラルを欠いたニュースが世間を賑わしている。その原因として、「モノの豊かさ」に目を奪われ「心の豊かさ」を軽視する傾向があるからではないだろうか。

日本が戦後の焼け野原から高度経済成長を遂げる過程においては、「モノ」を満たすことが豊かさの基準であったのかもしれない。しかし、世界有数の経済大国となった今、豊かさの基準は「モノの豊かさ」と「心の豊かさ」が両立することだと私は思う。本来、日本人は古くから関係や評判や信頼といった、目に見えない「心」の価値を大切にしてきたはずだ。今こそ我々は、「心」の価値の重要性を再認識し、自らの生き方を見つめ直す必要がある。

まちの未来を明るくするためには、豊かな心を兼ね備えた、魅力ある人財を一人でも多く創出することが肝要だ。まちを牽引する我々は、積極的に自己研鑽を重ね、その先導役とならなくてはならない。

### 【青少年の育成】

近年、核家族世帯の増加やライフスタイルの多様化により、地域内における近隣関係が希薄になっていることが問題となっている。それに伴い、子どもと地域の大人が接する機会も減りつつある。

私は幼い頃、子供会の行事や学童スポーツを通じ、身近な大人と触れる機会が頻繁にあった。その身近な大人たちの言動や立ち振る舞いを見て、知らず知らずのうちに正しい倫理観を身に着けてきた。そのような経験から、私は青少年の育成について、家庭や学校だけでなく、地域の身近な大人が積極的に子どもたちと関わるべきだと思う。そして、まちを牽引する我々は、その一員として率先して青少年の育成に取り組むべきだ。まちの未来を受け継いでいくのは、紛れもなく地域で住み暮らす子どもたちなのだ。

第36回を迎える「わんぱく相撲うつのみや場所」は、青少年の健全な育成が目的で行われてきた。子どもたちが地域の大人と接し、礼儀や礼節を学び、他者を思い遣る心を育む貴重な機会である。例年、多くの子どもたちが参加し、真剣な眼差しで勝負に挑む中、様々なドラマが生まれてきた。本年も、子どもたちの一生の思い出となる最高のステージを構築しよう。

#### 【未来のまちの担い手へ】

まちづくりは自らのまちを愛する心「郷土愛」が原点である。私は、郷土愛を醸成するためには、人間形成の途中段階である子どもたちが、まちの歴史や文化に触れることが重要だと思う。

宇都宮市は学校教育推進計画に基づき、本市にゆかりのある「百人一首」に関する活動を全小学校で実施している。また、市政120周年を記念して発行された冊子『宮つ子うつのみやナビ』を全生徒へ配布し、郷土の魅力を伝える取り組みが行われている。

このような取り組みが学校教育の現場で行われているが、歴史や文化に関する内容は、世界や日本全体について触れることが大半であり、住み暮らすまちにスポットライトが当たることは少ない。次世代を担う子どもたちが、まちの由緒ある歴史と素晴らしい文化に触れ、より深く郷土への愛着を育んで欲しい。その経験が種となり、成長するにつれて大きく開花し、未来のまちづくりの担い手となっていくのだ。

#### 【国際交流の礎】

観光立国を国の重要な施策の一つに掲げた「観光立国推進基本法」が施行され、官民挙げて様々な振興策が取られた結果、訪日外国人旅行者数は近年急増している。観光庁の資料によると、2005年に670万人であった訪日外国人旅行者数は、2015年には1,970万人を超え、2020年には4,000万人を目標としている。

宇都宮市は観光振興プランに基づき、4言語対応の宇都宮市観光アプリの配信や外国人向けのパンフレットの配布など、外国人観光客に向けた情報提供を進めている。また、アジア圏を主なターゲットに、現地マスコミや旅行会社を対象にしたFAMツアーなども実施し、プロモーション活動を積極的に行っている。行政のこのような取り組みは、着実に宇都宮の認知度を高め、外国人の来訪に繋がりにつつある。

私は、来訪した外国人に愛する我がまち宇都宮の魅力を存分に体感していただき、このまちを好きになってもらいたい。そのためには、設備やツールの拡充だけでなく、市民の外国人に対する受け入れ意識の向上が必要だと思う。多くの市民が言葉や文化の違いから、外国人に対して潜在的に苦手意識を持っている。市民一人ひとりがそのハードルを取り除

き、おもてなしの主演となれば宇都宮に対する印象は格段に上がる。温かく迎えられた外国人はリピーターとなり、その体験を自国へ発信してくれるはずだ。

### 【魅力の発信】

東洋経済新報社から出版された「都市データパック」によると、宇都宮市は全国50万人以上の都市を対象とした「住み良さランキング」2016年版で4年連続1位となった。さらに、餃子やジャズを代表にPRできる要素も多く、全国でも注目される都市となりつつある。

我々のみならず、行政やマスコミや各種団体も、積極的にまちの魅力を発信している。私は、効果的に魅力を発信するためには、それぞれの情報発信母体による連携が必要だと思う。有益な情報を共有しあい、それぞれの得意な手法で魅力の発信をしていく。そして、そこに個人による情報発信が加わることで、さらにその効果が増していくのだ。

まちの魅力を発信することで、まちに興味を持つ人が増える。興味を持つ人が増えればまちを訪れる人が増える。そして訪れた人がまちの魅力の発信源となる。このような連鎖を生み出し、宇都宮のファンを増やしたい。

### 【まちの未来へ】

日本全国に697の青年会議所が存在し、3万人以上のメンバーが活動している。そのようなメンバーと出会うチャンスが日本JC本会や地区協議会、ブロック協議会への出向である。全国各地の多種多様な価値観に触れ、LOMでは味わうことのできない事業に触れる。そのことが自身の成長の機会となり、まちの未来を明るくするきっかけとなるのだ。本年も積極的に出向者を輩出していきたい。

近年、宇都宮青年会議所は全国大会招致に向けて歩を進めてきた。宇都宮で全国大会を開催することができれば、全国のJCメンバーが、我がまち宇都宮の魅力を知る機会となる。そして、その経験を各々の地域で語ることで、その魅力が全国に広がっていくのだ。全国大会を論じるのであれば、メンバー一人ひとりが全国大会について理解を深めることが重要である。その上でメンバー同士が腹を割って本音で語りあう。そのような機会を重ねることでベクトルが定まるのである。

我々は、未来のまちの姿を思い描くとき、住み暮らすまちの姿だけを見つめていてはならない。明治初期に、時の青年たちが欧米の先進国を視察したように、他のまちの手法を参考にしていくことも重要だ。本年、第66回全国大会埼玉中央大会が隣県で開催される。我々にとって他の地域を視察する絶好の機会である。この機会を生かし、地域の資源や魅力をどのように活かしているのかを知り、今後の活動のヒントにしていきたい。

### 【強い組織】

このまちのために活動する仲間が増えることは、組織にとって大きな強みとなる。また、仲間が多ければ多いほど、多種多様な価値観が融合し、強い推進力が生まれる。

強い組織になるためには、人財の育成が不可欠である。入会の浅い段階から組織の規律とJCの魅力を伝え、JAYCEEとしての心構えを学ぶ。その心構えが基となり、組織

を担う人財へと成長するのだ。根が力強く張っているからこそ木は大きく成長する。成長した木々が増殖することで煌々と輝く森となるのだ。

また、強い組織であり続けるためには、社会からの信頼を得なくてはならない。公益法人格を持つ我々は、常に社会から見られていることを自覚し、自らの行動や発言を律していく必要がある。また、事業構築のプロセスや組織運営の在り方も重要である。公益性の高い事業を構築するとともに、健全な財務体制の確立とコンプライアンスを遵守し、より一層の信頼を得ていこう。

#### 【結びに】

まちの未来を創るのは人である。このまちに住み暮らす一人ひとりの成長が、まちを変える原動力となる。人の成長がまちの魅力となり、その魅力を磨き続けることでまちに輝きが増していく。その中核を担うのは、いつの時代も我々青年なのである。

人生で同じシチュエーションは二度とない。

青年会議所で起こる出会いと経験は、全て自身の糧となる。また我々の運動は必ずやこのまちの明るい未来へと繋がっていく。人生の貴重な時間を費やすのだ。目の前の機会を大切にし、チャレンジしていこう。

昨年、宇都宮青年会議所は創立50周年という大きな節目を迎えた。本年は、その長い歴史の中で紡いできた想いを継承するとともに、未来の礎となるべく進んでいきたい。新たな半世紀のスタートを我々が飾るのだ。その一歩を力強く踏み出そう。

まちの未来は我々の手の中にあるのだ。